図書館活動の点検・評価

（平成 24 年度）

１．点検・評価への取組み　・・・ 1

２．自己点検・評価　・・・ 3

３．外部評価（平成 24 年度図書館活動の点検・評価への意見）・・・ 9

４．第３次実施計画（平成 25 年～27 年度）の点検・評価について・・16

熊取町立熊取図書館

1. 点検・評価への取組み

熊取図書館では、図書館が地域や住民に貢献できることを目指し、今後 10 年間の熊取図書館が目指す姿についてまとめた「熊取町図書館計画」を平成 19 年 1 月に策定した。

基本方針	
	１．図書館は「まちづくり」の情報拠点になります **２．図書館は「住民との協働」によるサービスをめざします** **３．図書館は「住民の生活を応援」します**

平成 19 年度には第 1 次実施計画（H19－H21）を、また平成 21 年度には職員一人ひとりが「これから3年間のサービス」を提案し、全員で話し合いを繰り返しながら長期短期の目標を分け、図書館協議会にもご意見をいただきながら、第2次実施計画（H22－H24）を作成した。

これら計画に基づき、限られた資源（予算・人員）を有効に活用し、より良い図書館サービスを実現していくためには、熊取図書館が「何を目的として（使命）」「どの程度を目指し（目標）」「どれぐらい実現できたのか（結果）」を明らかにしていくことが大切である。平成 20 年に図書館法が改正されたこともふまえ、図書館がどのようなサービスを行っているのか、できるだけ分かりやすく伝えることができるように、図書館活動の点検・評価を行うこととし、平成 22 年度以降は毎年、「図書館活動の点検・評価」をまとめている。

> **第７条の３　図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。（図書館法）**

本評価（平成 24 年度）については、23 年度より行っている4段階評価を元に図書館が1年間でどのような改善を行ったかわかるよう、前年度評価もあわせて表記し、評価の推移が分かるようにしている。

【評価の目的】

より良いサービスの実現

（サービスの改善や向上に結びつく評価（評価のための評価にならないように））

効率的・効果的な運営

（限られた資源（予算・人員）の有効活用、優先順位）

住民との協働による運営

（住民に関心を持ってもらえるような方法、結果だけではなく過程の公開）

【評価の方法】

自己点検：毎年の実施計画に基づき、サービスの状況を自己評価

外部評価：客観的な視点を確保するため、図書館協議会から評価・講評を得る

アンケート等：満足度を調査する方法として、アンケート等を実施する

（平成 22 年度に来館者アンケートを実施　＊3年に1回程度、次回は 25 年度秋に予定）

公　　表：「図書館活動報告」として統計や行事記録等と併せ印刷発行及びホームページ公開

【評価項目】

図書館で行う事業を実施計画（H22－H24）に基づき下記の5項目に分類し、評価する。

1　住民参画による適切な図書館運営
2　情報収集の場としての図書館機能の充実
3　だれもが読書に親しめる環境づくりの推進
4　子どもの読書活動の推進
5　多様な学習機会の創出

【目標値】

目標値は実施計画（H22－H24）の終了年次である平成 24 年度としているため、昨年度からの変更はない。

（実施計画において、適切な蔵書の更新と図書館利用の広がりを大きな目標としていることから、開架している図書の新鮮度は、目標値を 8.04％（人口規模別・貸出密度上位 10％の図書館の平均値＊平成 21 年）とし、年間有効利用率は長期的な目標として 30％に設定している。それ以外の目標値は、対前年度（H20）10％増を一定の目安として、これまでの実績等を勘案し平成 24 年度の目標値としている。「図書館活動への関心の高まり」など数値化しにくいもの、予約冊数など目標の設定自体がそぐわないものについては数値目標を設定していない。）

【評価の基準】

実施計画の目標値により、ABCDの4段階で評価を行う。

A：計画どおり実施し、目標値を達成した。
B：概ね計画通り（8割以上）実施したが、不十分な点や課題が残った。
C：不十分な点や課題が多く（8割未満）、計画通り実施できなかった。
D：取り組んでいない。

※目標値設定と評価基準については、より明確に行うため次期変更を予定

【アンケート】

利用者の満足度を知る方法の一つとして、平成 22 年6月に6年ぶりとなる来館者アンケートを実施した。（アンケート結果は、「図書館活動の点検・評価（平成 21 年度）」に掲載）

アンケートは 3 年ごとに実施する予定で、次回は平成 25 年秋に実施する。

2. 自己点検・評価

評価表1　住民参画による適切な図書館運営

○目標と評価

(1)住民との協働によるサービスの推進　【平成 24 年度自己評価:A （前年度B)】

(2)効率的・効果的な図書館運営　【平成 24 年度自己評価:A （前年度A)】

○自己点検結果

平成 24年度に実施した住民との協働による事業は別紙(P4)のとおりである。継続事業に加え「ビブリオバトル」の開催や町内音楽家によるコンサートなど、新たな取り組みが広がった。子どもの読書環境を支える住民グループ、保育所(園)や学校との連携については、合同研修会として講演会を開催し、子どもの読書について理解を深めることができた(詳細は「図書館活動報告～事業報告編」P8)。また図書館協議会については、初めて 2 名の委員を公募により決定した。より活発な意見交換がなされ、図書館サービスに反映することができている。これら新たな取り組みを踏まえ、平成 24 年度は自己評価をAとした。

効率的・効果的な図書館運営については、引き続き図書館活動の点検・評価を実施するとともに、第3 次実施計画(H25-27)を検討した。視聴覚資料及び雑誌については、町の行財政改革プランに基づき計画的な購入を行っている。職員の資質向上については、平成 24 年度は大阪府立図書館の出前講座を利用した情報検索研修を全職員が受講した。またブックトークやストーリーテリングの研修会も随時館内で行っており、今後も館内外での研修を充実させていきたい。

評価対象事業		計　画	評価の指標	平成24年度取組実績	目標値（24年度）	平成23年度取組実績	【参考】20年度
(1)住民との協働によるサービスの推進							
1	住民との協働による事業の実施	協働によるきめ細かなサービスの提供	・実施回数	別紙	よりよい町づくりへの貢献	別紙	－
2	子どもの読書活動を支える体制づくりの推進	連絡協議会、専門部会、連絡会等の開催	・会議実施回数 ・参加人数	8回 144人	子どもの身近な読書環境の充実	10回 215人	7回 118人
3	図書館協議会の開催	図書館サービス向上のための協議、評価を行う	・開催回数 ・検討項目	3回 検討項目＊	運営に関する課題の審議、会議内容の分かりやすい公表	3回 検討項目＊	3回
(2)効率的・効果的な図書館運営							
1	図書館活動の点検・評価	より良いサービスの実現を目指す	－	公表した	図書館活動への関心の高まり	公表した	未実施
2	資料費の抑制	町の行政改革プランに基づき抑制する	・雑誌ﾀｲﾄﾙ数 ・AV資料購入費	・150ﾀｲﾄﾙ ・286千円	・150ﾀｲﾄﾙ ・286千円	・150ﾀｲﾄﾙ ・286千円	・196ﾀｲﾄﾙ ・588千円
3	人件費の縮減	正職員を減員し嘱託員を採用（平成21～26年度）	・職員数・嘱託員数 ・臨時職員数	・7人・3人 ・6人	・7人・3人 ・6人	・7人・3人 ・6人	・9人・1人 ・5.8人

＊協議会検討項目：図書館活動の点検・評価について、これからの図書館サービスに望むこと、実施計画及び平成２５年度年間計画について

資料（評価表1）

平成24年度　熊取図書館における住民との協力、連携、協働事業一覧

1．催し、講座等

		活動(事業)名	実施日／回数	事業内容	団体名
★	1	地域出前講座 （タピオ体操との）	1回	地域の公民館等で実施している、健康づくりのための事業。図書館は、紙芝居等の読み語りや図書館の案内を行っている。	くまとりタピオ元気体操ひろめ隊
○	2	グロトリアン コンサート	6/23（土）	「グロトリアン・シュタインビッヒ」によるジャズコンサート ［ピアノ：加納新吾氏　チェロ：権上康志氏］	コンサートボランティアスタッフ
○	3	ピアノコンサート	12/23（日）	グロトリアンに関わりのある方によるコンサート［ピアノ：宮前勝代氏、杉岡祐希氏　ヴァイオリン：石田智子氏　ソプラノ：尾崎由布子氏］	
○	4	シニアコンサート	3/25（月）	一般に募集するとともに、高齢者サービスの一つとして、毎年町内の全ての福祉関連施設に案内を送付し、図書館から参加を呼びかけている。［出演：かたつむり］	
共	5	講演会	11/11（日）	毎年多様なテーマで、くまとり読書友の会との共催による文学講演会を開催している。 ［平成24年度講師］　齋藤純氏（11/11「修験道と伝説」）	くまとり読書友の会
★	6	講演会	9/15・16 2/14・21	【平成24年度子どもゆめ基金助成事業】図書館は、テーマに応じた本の展示やＰＲを支援。 ［平成24年度講師］　ひろかわさえこ氏（9/15「わたしの絵本づくり～子どもたちに寄り添うために」、9/16「ワークショップ」）、藤井佳子氏（2/14・21「移動するヒーローたち」）	熊取文庫連絡協議会
★	7	かがくあそび「紙であそぼう」	8/5（日）	平成24年度子どもゆめ基金助成事業［講師：高松泰子氏］ 図書館は、テーマに応じた本の展示やＰＲを支援。	
○	8	ビブリオバトルin熊取	11回	本の紹介をバトル形式で楽しむ新時代の読書会。9月には大学生の日本一決定戦「ビブリオバトル首都決戦2012」の地区予選も開催した。	くまとり読書友の会
	9	町民文化祭	11/3・4	町民文化祭で、図書館でも各種事業を開催。絵本の読み語り、おはなし会、手づくり会、おりがみ遊び、タピオ体操、展示協力など	熊取町文化振興連絡協議会／熊取文庫連絡協議会／くまとり読書友の会／くまとりタピオ元気体操ひろめ隊
★	10	文学講座	通年	和歌、短歌、俳句、朗読、読書会など多様なテーマで講座を開催し、読書活動の振興や図書館利用の促進を行っている。図書館は本の貸出しやＰＲを支援している。	くまとり読書友の会
○	11	講座	10/24（水）	布を使ったおもちゃづくり講座「布のおもちゃをハンドメイド」 講師：いちごの会	いちごの会
○	12	えほんのひろば	12/9（日）	可動式の段ボール製絵本棚にたくさんの本を並べ、ミニ図書館のように楽しむ。（地域等への出前可能）	熊取文庫連絡協議会
★	13	子どもの本の会	通年	絵本や児童文学、ストーリーテリングを学ぶ大人対象の講座を開催している。図書館は、本の貸出しや資料相談に応じている。	熊取文庫連絡協議会
○	14	虫の写真展	10月	熊取周辺で撮影された虫の写真展 10/13・14には撮影者による写真の説明会を開催。	カワセミ写真クラブ

2．子どもの読書環境の整備

	15	熊取町子ども読書活動推進連絡協議会・専門部会	合計9回開催	子どもと本に関わる住民団体、保育所(園）、幼稚園、小・中学校、関係課、図書館のネットワークづくりを進め、情報交換や学習機会の提供を行う。「第２次子ども読書活動推進計画」に基づき、各種部会や研修会を行った。<u>※詳細は活動報告Ｐ６</u>	文庫連／くまとり子育ちWA･輪･和／たんぽぽの会／くまとりロンド／熊取こどもとおとなのネットワーク／熊取町こども会育成連絡協議会
	16	ブックスタート	年12回	図書館、健康課、文庫連が連携し平成14年度から実施。４か月児健診において保護者への個別案内を行い絵本を手渡す。	熊取文庫連絡協議会
○	17	あかちゃんの時間	年12回	親子のコミュニケーションを深めることができるように、絵本やわらべうた等を楽しむ。毎回、文庫連担当者と図書館がプログラムの内容を検討する時間を設け、内容を工夫している。	熊取文庫連絡協議会
★	18	おはなしキャラバン	通年	文庫連が保・小・中の子どもたちにおはなしを届けている。図書館は本の貸出しや小・中学校で使用した図書の返却運搬を支援。	熊取文庫連絡協議会
★	19	家庭・地域文庫	通年	自宅や地域の憩いの家等町内５か所で、本の貸出や読み聞かせ等子どもが本に親しむ取組みを行っている。図書館は本の貸出等を支援している。	

※○は図書館主催、★は住民団体主催

3．図書館資料の作成、施設整備

20	さわる絵本の作成	通年	視覚に障がいのある子どもが、手で触れて内容を理解できるように工夫した絵本を作成している。図書館が絵本を選んで作成を依頼したり、著作権の手続きを支援している。	さわる絵本
21	点字図書の作成	通年	町広報紙やさまざまな本の点字図書を制作し、図書館に寄贈している。図書館が本を選んで作成を依頼したり、利用者に点字の読み方も教えてもらっている。	点訳サークルととろ、点訳サークルブレイル
22	布絵本の製作	年12回	乳幼児から障がいのある子どもまで、幅広く楽しむことができる布絵本を製作している。	いちごの会
23	図書の修理	年12回	図書館で、読み疲れ等によりページが外れたり破れたりした本の修理を行う。	しゅうり工房（くまとり読書友の会）
24	健康コーナー掲示	随時	図書館に設置した「健康コーナー」において、住民に役立つ健康情報や活動内容を掲示している。	健康くまとり探検隊／熊取町食生活改善推進協議会／くまとりタピオ元気体操ひろめ隊
25	リサイクルブックフェアーの開催	5/25・26 11/3・4	図書館で不要になった本のリサイクルフェアーを年２回開催。収益は学校図書館の図書費として寄附している。	リサイクルブック実行委員会
26	緑のカーテン設置		児童室窓側に緑のカーテンを設置。	グリーンパーク熊取

評価表2　情報収集の場としての図書館機能の充実

○目標

(1) 利用者の拡大～図書館の役割を伝える・拡げる取組み　【平成 24 年度自己評価:C （前年度C)】

(2) 新鮮で魅力的な蔵書　【平成 24 年度自己評価:A （前年度A)】

(3) 的確な資料・情報の提供　【平成 24 年度自己評価:B （前年度B)】

○自己点検結果

平成 24 年度も引き続き利用の拡大に向けた取組みを行ったが、町民の年間有効利用率(図書館で年に1回以上資料を借りた人の割合)が 0.8 ポイント減少するなど、貸出利用は微減している。また貸出資料の冊数も減少している。図書館で本を借りるのではなく、雑誌や新聞に目を通し時間を過ごすという滞在型の利用は引き続き多くなっており、2 月には初めて館内での閲覧利用を試験的に測定する試みを行った。この閲覧量測定は今後も定期的に行い、図書館の利用量を図る新たな指標としていきたい。

蔵書については、開架蔵書新鮮度の目標を定め、計画的な購入をしてきた結果、目標値を上回る数値に到達した。住民の多様な要求に応え、公立図書館としての役割を果たしていくため、適正な蔵書構成を維持していきたい。また平成 24 年度からは書庫見学会を毎月 1 回開催し書庫資料の活用を図った。今後もPRを工夫しながら書庫の資料の有効活用を図っていきたい。

的確な資料・情報の提供については、ビブリオバトルと連動した「ビブリオバトルで紹介された本」のコーナーを設置するなど、より多くの本を紹介できるよう工夫した。事前にネット予約で資料を依頼し、カウンターや駅下にぎわい館で受け取るという利用の割合は年々増加している。庁内への行政情報の提供については、「仕事に役立つ新刊案内」の毎月発行と、新聞記事情報「今日の話題」の週4日発行を引き続き行い、多くの依頼があった。また通常業務の中で資料を必要とする町職員からの依頼も定着してきている。

評価対象事業		計　画	評価の指標	平成24年度取組実績	目標値（24年度）	平成23年度取組実績	【参考】20年度
(1)利用者の拡大							
1	利用者の拡大	より多くの住民に利用してもらえる図書館を目指す	・年間有効利用率	19.5%	30%	20.3%	21.3%
2	職員の対応	対応についての満足度向上	・来館者アンケート	＊	80%	＊	―
(2)新鮮で魅力的な蔵書							
1	資料の収集	新鮮な蔵書構成の維持	・開架蔵書新鮮度	8.22	8.04	8.03	6.02
2	蔵書の有効活用	書庫資料を含め、より多くの資料を利用してもらう	・テーマ展示回数 ・書庫出し冊数 ・書庫見学会開催数	159回 20,560点 12回	維持 12回	143回 21,636点 1回	114回 24,753点 新規指標
(3)的確な資料・情報の提供							
1	資料の貸出	個人貸出点数の増加	・住民1人あたり個人貸出点数	7.44冊	8.5冊	7.6冊	7.65冊
2	予約サービス	インターネット予約の拡充	・ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ予約件数 ・ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ発行件数	16,515件 479件	―	15,498件 635件	7,827件 297件
3	他図書館との連携	相互貸借の円滑な実施	・借受冊数 ・他館への貸出冊数	1,958冊 271冊	―	1,721冊 207冊	2,060冊 54冊
4	行政情報提供	住民へのわかりやすい情報提供 庁内への情報提供	・利用度(来館者ｱﾝｹｰﾄ) ・情報提供回数 ・依頼件数	＊ 212回 730件	48% 120回 新規指標	＊ 217回 683件	未調査 12回 ―
5	課題解決の支援	健康情報の提供	・利用度(来館者ｱﾝｹｰﾄ) ・蔵書冊数	＊ 4,301冊	65% 維持	＊ 4,017冊	未調査 3,163冊

＊来館者アンケートは3年に1回実施（H22実施、次回は平成25年秋に実施予定）

評価表3 だれもが読書に親しめる環境づくりの推進

○目標

(1) YA(ヤングアダルト)サービスの充実 【平成 24 年度自己評価:B (前年度B)】

(2) シニアサービスの充実 【平成 24 年度自己評価:A (前年度A)】

(3) 障がいのある方へのサービスの充実 【平成 24 年度自己評価:B (前年度B)】

○自己点検結果

YA世代(中高校生)へのサービスについては、POP を募集しパネルに展示するなど取り組みを工夫したが、有効利用率は前年度に比べ 1 ポイントの減少となった。ただ学校図書館への団体貸出利用は増加しており、図書館に来館せずに学校図書館経由で利用している中学生も多い。中学校図書館を通じての利用にきめ細かく対応しながら、引き続き親しみやすいコーナー作りを工夫していきたい。

シニア世代へのサービスについては、大活字本を引き続き購入し、利用も増加している。また活字を音読することで脳の活性化を図る「あたまイキイキ音読教室」を開催したところ、多くの参加者があった。この教室は非常に好評であるため、25 年度以降も定期的に開催することを検討していきたい。またケアハウスなどの施設への団体貸出も増加している。

障がいのある方へのサービスについては、対面朗読と宅配サービスを引き続き実施した。平成 25 年度はプレクストークの購入など、機器の充実も図っていきたい。また、布の絵本の貸出を開始するとともに、区長会等を通じて様々なサービスのPRに努めた。

評価対象事業		計　画	評価の指標	平成24年度取組実績	目標値(24年度)	平成23年度取組実績	【参考】20年度
(1) ＹＡ(ヤングアダルト) サービスの充実							
1	魅力的な図書の収集	学校図書館との連携、アンケート等により読書傾向把握	・YA世代年間有効利用率	20.2%	23%	21.2%	22.1%
2	読書案内	新着図書などの紹介を工夫し利用につなげる。	・新刊案内発行回数 ・本の紹介POP冊数	6回 51冊	6回 60冊	6回 7冊	未実施
(2) シニアサービスの充実							
1	計画的な資料収集	大活字本、録音図書等の貸出	・大活字本所蔵冊数 ・録音図書所蔵冊数	1,505冊 602点	1,200冊 500点	1,332冊 687点	961冊 447点
2	地域出前講座	住民との協働による講座開催	・開催回数 ・参加者数	4回 217人	図書館活動への関心の高まり	8回 385人	未実施
3	施設へのサービス	団体貸出、コンサート招待	・貸出団体数、冊数 ・行事参加者数	6施設、317冊 23人	―	3施設、203冊 19人	指標変更
(3) 障がいのある方へのサービスの充実							
1	宅配サービス	広くＰＲし、利用者の拡大に繋げる。	・貸出冊数	6冊	―	0冊	2冊
2	対面朗読	広くＰＲし、利用者の拡大に繋げる。	・実施回数	33回	―	32回	59回
3	施設へのサービス	団体貸出・リサイクル図書提供施設数、冊数	・貸出団体数、冊数 ・提供団体数、冊数	2施設、238冊 5施設、191冊	新規指標	5施設、142冊 3施設、52冊	新規指標

評価表4　子どもの読書活動の推進

○目標

(1) 子どもと本をつなぐ大人の育成・支援　【平成 24 年度自己評価:B （前年度B)】

(2) 乳幼児期・幼児期における本に親しむ機会の拡大　【平成 24 年度自己評価:A （前年度A)】

(3) 学校図書館支援センターとしての機能の充実　【平成 24 年度自己評価:B （前年度B)】

(4) 障がいのある子どもの読書環境の整備　【平成 24 年度自己評価:B （前年度B)】

○自己点検結果

子どもと本をつなぐ大人の育成・支援については、これまで通り関係団体や施設へ新刊情報や研修機会などの情報提供を行った。

乳幼児期・幼児期における本に親しむ機会の拡大については、子育て支援講座の実施回数を増やすとともに、23 年度に開始した「絵本こぐま便」「えほんのひろば」の充実を図った。「絵本こぐま便」は利用施設も増加しており、団体貸出数の増加につながっている。「えほんのひろば」も保育所での関係をスタートしており、自己評価をAとしている。

学校図書館の支援については、計画に基づき、小学校 2 校に出向き、学校と連携し除籍作業やレイアウトの見直しなどを支援した(8 校中 6 校完了)。学校図書館への団体貸出数や予約件数も増加しており、学校を通じて図書館資料に触れる機会が増えている。

障がいのある子どもの読書環境の整備については、新たに児童デイサービスに通う子どもたちへのお話会を定期開催することができた(9 回:延べ 72 人)。またボランティアグループが製作した布絵本の個人貸出も開始した。

評価対象事業		計　画	評価の指標	平成24年度取組実績	目標値（24年度）	平成23年度取組実績	【参考】20年度
(1)子どもと本をつなぐ大人の育成・支援							
1	新刊や研修機会等の情報提供	関係団体、施設への情報提供	・提供先件数	19施設 7団体	20施設(全保幼小中)10団体	20施設 7団体	19施設
2	ボランティアの育成・支援	子どもと本をつなぐ役割を担うボランティアの育成	・講座参加人数	未実施	新規活動者の増加	のべ67人	未実施
(2)乳幼児期・幼児期における本に親しむ機会の拡大							
1	利用の拡大	子ども(乳幼児・幼児）の利用の増加	・年間有効利用率（乳幼児・幼児）	29.6%	30%	30.6%	29.5%
2	子育て支援講座の開催	図書館及び地域での講座開催	・館実施回数、人数 ・地域　〃	27回、923人 22回	維持 6回	24回、526人 12回	33回、889人 未実施
3	図書館訪問、団体貸出	保育所(園）幼稚園からの訪問、団体貸出の増加	・訪問施設数 ・団体貸出冊数	4施設 6,363冊	8施設 3,600冊	5施設 4,909冊	3施設 3,533冊
4	団体貸出	地域の文庫、子育て支援関係講座等への団体貸出	・団体数 ・貸出冊数	16団体 5,373冊	10団体 3,000冊	14団体 3,672冊	5団体 1,589冊
(3)学校図書館支援センターとしての機能の充実							
1	学校図書館への資料提供	連絡便を活用し迅速な資料提供を行う	・貸出冊数 ・予約件数	11,680冊 2,576件	維持	10,415冊 2,072件	10,328冊 2,659件
2	学校図書館資料の除籍支援	計画的に除籍を行えるよう支援する	・実施校数	2小学校 （累積6校）	累積6校（8校中）	2小学校 （累積4校）	未実施
3	利用の拡大	子ども(学齢期）の利用の増加	・年間有効利用率（小学生）	48.7%	50%	48.8%	48.6%
(4)障がいのある子どもの読書環境の整備							
1	子どもが本と出合う機会の充実	図書館に来館する機会の充実	・実施回数	11回	5回	1回	2回
2	資料の収集	多様な資料の提供	・児童向け点字図書数 ・さわる絵本数 ・布絵本数	38冊 34冊 19冊	新規指標	38冊 31冊 4冊	新規指標

評価表5　多様な学習機会の創出

○目標

(1) 文化講演会等の開催　【平成 24 年度自己評価: A （前年度A)】

(2) 住民団体等の活動の支援　【平成 24 年度自己評価:B （前年度B)】

○自己評価

文化講演会等の開催については、各種団体との共催・協力によりさまざまな事業を開催することができた(詳細は事業報告)。ビブリオバトルについては毎月 1 回(年間 11 回)開催し、9 月には大学生の日本一を決めるビブリオバトル首都決戦の地区予選会を実施した。2 月には参加者有志による意見交換を行い、これからの進め方や PR について話し合った。ビブリオバトルの影響もあり行事の参加者数は増となっている。また、初めて科学をテーマにした講演会を開催し、好評であった。

会議室の活用については、稼働率は微増となっており、今後も利用促進のためPRしていきたい。町内で活動する団体の会報等については「くまとりコーナー」に設置しており、住民に分かりやすく提供できるように配置している。今後は町内の商店などの情報についても、まちの情報として幅広く提供していきたい。

評価対象事業			計　画	評価の指標	平成24年度取組実績	目標値（24年度）	平成23年度取組実績	【参考】20年度
(1) 文化講演会等の開催								
	1	講演会、講座等の開催（大人対象）	住民の興味・関心に応じ、利用を促進する講演会等の開催	・実施回数 ・参加者数 （共催・協力事業含む）	19回 838人	維持	7回 534人	8回 448人
(2) 住民団体等の活動の支援								
	1	会議室の提供	地域活動の活性化に寄与	・利用団体数 ・稼働率	40団体 30.9%	40団体 30%	43団体 30.3%	29団体 未統計
	2	資料・情報の収集、提供	住民団体等の活動内容を把握し分かりやすく提供する	・収集団体数	51団体	60団体	49団体	未統計

３．外部評価（平成 24 年度の図書館活動の点検・評価への意見）

熊取町図書館協議会

総合評価

2012 年 12 月 19 日改正の「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（平成 24 年文部科学省告示第 172 号）では社会の変化に対応する図書館が求められている。熊取町立熊取図書館（以下「熊取図書館」）は、以前よりこの望ましい基準に示されている、“基本的運営方針の策定・公表、指標の選定、目標の設定、年度事業計画の策定・公表”を行っている。これも「望ましい基準」に明記されている専門的職員による業務遂行と図書館協議会の設置による適切な“管理運営体制の構築”が確立されているからだと考える。

利用者としてみると、図書館内がどんどん賑やかになり、楽しく親しみやすい雰囲気づくりがなされており、図書館運営に司書集団の経験と柔軟さが生かされているのを感じる。また、熊取図書館では、資料の貸出にだけに限定されない実に多様なサービスが提供されている。特に子育て応援の企画には手厚い配慮が払われており、町の政策ともマッチして、かなり充実している印象である。

また、「望ましい基準」には多様な機関との連携・協力や多様な利用者（児童・青少年、高齢者、障害者、乳幼児とその保護者、外国人等）へのサービス充実があげられている。「図書館活動報告－事業報告編・統計編－」に見られるように、他機関との連携・協力の中で充実した取組みが継続的に行われていることも評価したい。

20 周年を前に

図書館は、来年 20 周年を迎えるが、年々充実していっていることを感じている。いい意味での変化を遂げながら、常に前向きである。これでいいということなく、様々なことに挑戦し、新鮮な図書館が育ってきているように思う。そこには様々な状況の変化にもめげず、かといって現状維持でもなく、常にサービスの向上に挑戦している姿がある。20 周年を迎える図書館が、利用者の拡大や利用者の要求にこたえ続けることは困難なことではあるが、住民との協働や他機関との連携が進む中で、サービスが多方面に拡大していっている。住民との協働のあり方は、長年の積み重ねに他ならないが、それが一番大事な「人と人」のつながりの中から生まれてきていることは特記しておきたい。図書館計画の目標でもある＜まちづくり＞に役立つ図書館になりつつある。

今回の点検・評価はおおむねＡ評価であるが、さらに内容の充実は求められている。その力になるのは、20 年という年月であろう。図書館開館の年に生まれた子どもたちが今年成人になった。図書館を利用した人もしなかった人も、20 年間図書館のある町で育ったということになる。次の世代に図書館がどう役立っていくのか、図書館の真価が問われてくるということでもある。

これからの図書館の発展は、職員の努力だけに頼ってはいられない。図書館が町行政の中に果たしてきた役割は、正しく評価されるべきであるが、その大部分は数値では測ることができない。0 才から 15 才までの子どもたちへのサービスが、その子どもの一生を支える核となってほしいと「子ども読書活動推進計画」は推進されてきた。

熊取町内へ転入する子育て世代の中に、「良い図書館がある町だから、引っ越してきました」という声も多く聞くようになってきた。今はそれが「協働の町づくりの中心に図書館がある」

ことの証明だと思う。「良い図書館のある町は、良い住民の活動がある」その逆もまた言われることだ。その期待に応えることが私たち住民に求められているともいえる。

協働の視点

図書館は、住民一人ひとりのためにある。決して、行政のものではないという考え方が基礎にあり、行政と住民に根づいてこそ協働は成り立つ。熊取図書館は図書館建設準備の時点から、そのことを大事に考えてきた経緯がある。

協働という考えは、ここ 10 年ほど前から盛んに言われてきたが、本当の意味で協働が成り立っている自治体は少ない。住民と行政職員が対等な立場で、サービスの内容を考えるというのは並大抵の努力ではできない。職員の中にも、準備室時代の取組みから、住民の声を聴き運営に反映させることがサービスの発展につながるという意識が育ち、現在まで協働の精神が根づいてきていることを感じる。

しかし、逆に住民の中に「やってくれて当たり前」的な意識が生まれないとも限らない。現にそういった利用者もいることだろうが、図書館サービスを通じて、図書館が何でも利用者の言いなりになるのではなく、建設的な意見を言える住民が育っていくのをサポートするのも図書館の役割であろう。さらに協働意識を高めることが重要な時期だと思う。

今後に向けて

専門的職員の確保や育成は日本図書館協会の認定司書に熊取図書館からすでに２名認定[1]されたこともその質は確認できる。町行政の人事管理の中でも司書の資質・能力の開発に十分留意して、継続的・計画的な組織強化の方針が望まれる。

子育て支援のような企画が、シニア世代・障がいのある方々にも行き届き、現役世代に拡がれば、さらに住民が生活していく上で必要不可欠な情報拠点になり得ることを期待したい。

図書館が本を提供するサービスだけではないということが、今後の課題であり、職員が積極的に一歩住民の中に踏み込んで、その力を借りるという姿勢があれば、住民は喜んで協力してくれるであろう。実績は十分に積んでいるからこそ、地域に根差した図書館になっていく可能性は大いにあると思う。自信を持ってほしい。

また、近年、災害に対する関心が高まっているが、来館者の多い図書館自体が安全・安心の場であるとともに、災害に対する情報拠点として機能してもらいたい。来館者を含めた避難訓練を実施することも必要ではないだろうか。

評価のあり方

今回の評価では、評価手法そのものについて再考を求める意見が多くあがった。図書館業務全体からすると、ほんの一部でしかない数値で全体を評価することになってしまうことや、貸出冊数を評価することの意味、また毎年同じ方式で行うのではなく、中間報告のような形ですることはできないのか、次年度に向けて検討していきたい。

---

[1] 全国で７１名（2013 年 4 月現在）

個別評価項目について

評価表１　住民参画による適切な図書館運営		
評価対象事業	自己評価	**外部評価**
（１）住民との協働によるサービスの推進	A	**A**
（２）効率的・効果的な図書館運営	A	**A**

【意見】

（１）住民との協働によるサービスの推進

＜図書館の主催事業＞

幅広い団体との協働作業と、事業内容も本に限らず一年を通じて音楽、講演会、講座、展示会等多様に展開している点は評価“A”に値する。「町民文化祭」の参加も定着してきている。図書館づくりの原点であった「協働」が生かされた運営が続いている。利用者としても、充実した時間と空間の演出をしているのを楽しむことができている。「ビブリオバトル」の開催は利用者の図書館への新しい参加のしかたとしてとてもよい取組みだ。利用者が取り上げる本も大変興味深く、色々な年齢層の方の参加がうかがえる。その時間と空間から有機的に繋がる次なるアイディアがどんどん浮かぶ繋がりのある協働サービスだと感じる。

＜学校や社会教育施設との協働＞

中学校、小学校、保育所、幼稚園、更に支援団体等に直接働きかけ実績を上げている点も評価される。子どもの読書活動を支える体制づくりが推進されているため、学校教育においても計画的に読書活動に取り組むことができている。また、子どもたちの本への関心も深まっている。

＜住民団体との合同研修＞

他団体との合同研修も多彩な取り組みが報告されている。住民が図書館を地域の情報拠点として、また活動拠点として利用する、地道な企画が継続されていることは評価できる。

＜図書館協議会委員の公募＞

平成 24 年度には協議会委員を初めて公募し、図書館との関わりが深い委員の参加も心強い。今後の取組みとして、図書館が＜まちづくり＞に果たしている役割をＰＲし、もっと地域の活動支援に積極的に働きかけてもよい。新しい協働相手の開拓も必要になる。出前講座へのかかわりを住民側に働きかけてもいいのではないか。

（２）効率的・効果的な図書館運営

少ない専任職員数で、これだけ煩雑な作業をこなしているのは評価できるし、職員が日々進化すべく動いていることを感じる。全職員が研修会への参加等によってスキルアップを図っており、今後も進んでいく情報に遅れることなく研修の機会を持ってほしい。

待つサービスから出かけていくサービスへの拡大など、様々な行事が展開されているが、何を職員がやり、何を住民との協働でやるのかを吟味したうえで、効率的かつ効果的な運営を今後も推進してほしい。正規職員の新規採用とともに、積極的に図書館運営に関わる職員集団体制づくり（非正規職員を含む）が求められる。

評価表２　情報収集の場としての図書館機能の充実		
評価対象事業	自己評価	**外部評価**
（１）利用者の拡大	C	**B**
（２）新鮮で魅力的な蔵書	A	**A**
（３）的確な資料・情報の提供	B	**A**

（１）利用者の拡大

図書館内に留まらず出前講座等、あらゆる年代の住民が図書館に親しみを持ち、図書館利用につなげていくことへの工夫がみられる。しかしながら利用者数は、開館時から常に拡大していくものではなく、２０年を迎える図書館として一定の安定期にきている。また、利用者の拡大の目標値が適切でなく、自己評価がＣとなっている点に疑問を感じる。団体貸出が増えているが、各施設での貸出は数値にあらわれてこない。数字に表れない滞在型の利用者を考慮に入れるべきであり、現在試行されている閲覧利用測定は参考になる。あわせて、来館者数も調査すべきである。改めて、評価指標の設定を明確にする必要がある。

今後に向けて

地区別の利用者数について、図書館への距離の差も大きいのではないかと思うが、利用の少ない地区への働きかけにも力を入れていってほしい。また、新規転入の世帯に対するＰＲも必要。「全く図書館を利用したことがない」方が「一度利用する」という一歩を踏み出すための種まきを一緒に考えていきたい。第２次実施計画が終わって第３次実施計画が始まるこのけじめの機会に、広く図書館運営に関する懇談会を企画してみるのもいいのではないか。

（２）新鮮で魅力的な蔵書

図書館は知らない資料と出会える魅力が大きいので、開架蔵書新鮮度が目標より高かったのは評価できる。「熊取図書館は他の図書館に比べて、調べたいことが載っている書籍がたくさんあるので来館している」との声を聞いた。魅力的な蔵書が多いことの表れだと思う。全体として、予算削減の中で、職員の努力が見える。しかし、どこの自治体でも状況は同じで、他の館からの借り入れが難しい状況がうかがえる。魅力的な蔵書構成がないと確実に利用者の減少につながる。図書館の蔵書の新鮮さを保つためには、計画的な予算の確保が重要だ。

（３）的確な資料・情報の提供

行政情報提供と町職員からの依頼が定着してきたのは喜ばしい。町の行政立案能力にも貢献していると考えられる。一般の利用者に対しても、書庫見学や新刊案内、司書のおすすめ本コーナーの設置、テーマ展示など工夫が感じられる。カウンターでも、職員の迅速な対応がある。さらに近年インターネット予約等も増加してきており、外出しにくい人にとっては大いに助けになっていると思う。

的確な情報提供には、利用者のニーズを把握できていかなければならないが、カウンターでの利用者とのコミュニケーションなどが、書架配置に反映されるような体制づくりはできているか。利用者の声が反映できる体制づくりやＰＲをさらに進めてほしい。「ビブリオバトルで紹介された本」コーナーを作っていたが、利用者が紹介してくれる本なので、その点も面白い紹介の仕方だった。

評価表３　だれもが読書に親しめる環境づくりの推進		
評価対象事業	自己評価	**外部評価**
（１）ＹＡサービスの充実	Ｂ	**Ｂ**
（２）シニアサービスの充実	Ａ	**Ａ**
（３）障がいのある方へのサービスの充実	Ｂ	**Ｂ**

（１）ＹＡサービスの充実

クラブ活動、日々の学習などで一時期本や図書館から足が遠のく中高生にとって、学校への団体貸出しというシステムはありがたい。読書のことが生徒同士の話題にのぼる機会にもなる。図書館の中高生の有効利用者が減少しているのはさみしいが、この年齢の生徒の生活時間を考えると学校図書館との連携の中で町全体の図書館利用を評価したい。季節ごとの展示にもＰＯＰ募集など工夫がこらされている。大事なことは中高生が図書館でゆったりとした気持ちで過ごしてくれることだ。

今後に向けて

利用のされ方を見ながら、運営してほしい。もっと参加型の企画を工夫して、例えばイラスト展やコンサートを開いたり、ＹＡ自身が参加する広報紙(誌)を発行するというのはどうだろうか。また、情報選択・活用の力が身につくよう司書が支援するという視点・企画があってもいいと思う。ヤングアダルトと言われている世代への取組みはどの図書館でも試行錯誤が続いている。図書館としてどこに焦点をおくのか、もう少し明確にする必要がある。

（２）シニアサービスの充実

出前講座「らいぶらり庵」は、図書館が地域にでかけていく積極的活動として評価できる。ケアハウスなどの施設への団体貸出しが増えていることや計画的な資料収集が行われていることも評価したい。シニア世代については自らアプローチしてくる世代であることから、要望なども出やすく、サービスの内容も検討をつけやすい点はあると思うが、興味や趣味の発表の場として利用できるなど、もっと利用内容に幅があっても良いと思う。

（３）障がいのある方へのサービスの充実

宅配サービスと朗読サービスは地道に続いている。急激に伸びるものではないが、ＰＲをしながら続けることが大切である。マルチメディアＤＡＩＳＹはいろいろな状況の人に有効に利用されるメディアなので、関係機関と連携しながらして普及して欲しい。

今後に向けて

図書館を利用する施設や作業所の方が増えてきている。各施設の職員との交流会などを開いて、図書館職員も住民と一緒に基礎から学びながら、図書館として何ができるのかを把握していく必要があるのではないか。利用者の声を具体的にまとめながら向上してほしい。また、障害は身体的なものから精神的なものまで様々なので、対象に即したわかりやすい展示や、一般の人に向けて理解を促すような展示があっても良い。設備として、ヒアリングループ（磁気ループ）の設置を検討してみてはどうか。

評価表４　子どもの読書活動の推進		
評価対象事業	自己評価	**外部評価**
（１）子どもと本をつなぐ大人の育成・支援	B	**B**
（２）乳幼児期・幼児期における本に親しむ機会の拡大	A	**A**
（３）学校図書館支援センターとしての機能の充実	B	**A**
（４）障がいのある子どもの読書環境の整備	B	**B**

【意見】

（１）子どもと本をつなぐ大人の育成・支援

ボランティア活動への支援は、図書館が住民とともにサービスの質を高め広めるために欠かせない点である。一方、新規活動者の育成は、熊取町の場合は活動する住民自らが行っており、図書館として取組む必要はないと思う。

今後に向けて

子どもの学びと大人の学びの交差点をまとめ、今までのノウハウを生かして進化させて行くと面白いのではないか。活動への資料や情報提供の支援は十分になされており、育成と支援を分けて項目の見直しが必要である。

（２）乳幼児期・幼児期における本に親しむ機会の拡大

「あかちゃんの時間」「絵本こぐま便」「えほんのひろば」など、乳幼児が本に親しむ機会として良い取り組みであり、図書館の努力が見える。多施設との連携、各年齢層別、子どもと一緒に参加する若い親世代にとっても本に親しむ機会にもなっていると思う。団体貸出も大きく伸びており、評価できる。さらに求めるとすれば、「絵本こぐま便」を届けた時の交流など、もう一歩踏み込んだアプローチができるのではないか。また、熊取図書館の乳幼児コーナーの充実には定評があり、他の図書館にも参考になる事例がある。リラックスできるソファーやワクワクする仕掛けがあってもよい。この年齢層へのサービスは、親や保育士、教員など、子どもと本をつなぐ大人の役割が重要であり、ニーズを把握し的確な情報や資料を提供することが今後も重要である。

（３）学校図書館支援センターとしての機能の充実

毎日学校間の連絡便で資料提供してもらえることで各教科の授業や調べ学習にも大変役立っている。年次計画により夏休みに実施している整備支援は、学校図書館機能の充実、良い読書環境づくりとなっており評価できる。次の第３次子ども読書計画において、学校図書館のヴィジョンを具体的に示すことにより、支援センターとしての役割をさらに発揮することが期待される。

（４）障がいのある子どもの読書環境の整備

児童デイサービスへ通う子どもたちへのお話会が定期的に開催できたとの報告で、本の楽しさを公平に届ける努力と工夫をしている。布絵本についても、活用方法についての研修会を開くなどきめ細かいサービスで評価できる。

今後に向けて

障がいの内容は多様で幅が広く、個別の対応が必要である。図書館が学校のニーズを把握し、本のコーナーづくりなど、積極的にアドバイスをしてもいいのではないか。

評価表５　多様な学習機会の創出		
評価対象事業	自己評価	**外部評価**
（１）文化講演会等の開催	A	**A**
（２）住民団体等の活動の支援	B	**B**

【意見】

（１）文化講演会等の開催

昨年に引き続き色々な分野の講演会等が開催されている。文化講演会等の活発な開催は、住民の文化意識の高さを示しており、図書館が多様な催しの場となっていることは評価できる。新しい取り組みが定着するのには何年か要すると思うが、「ビブリオバトル」など、利用者参加型の催しも定着させたい。

多くの住民に参加頂くためには、町内の住民の中にある人的資源をもっと活用するようにしてはどうか。「参加したい！！」と心の鐘を鳴らすキャッチーなコピー、イベントタイトルを考えたり、住民の企画を募集するなどして、町広報と図書館カウンター以外の周知策をともに考えていきたい。わかりやすいポスターの提示やチラシの置き場所（総合カウンター児童カウンターの分け方等）を再検討してもよい。まずは、図書館協議会の専門分野の委員さんの講演会など開催するところから始めてはどうか。

（２）住民団体等の活動の支援

図書館で行う活動、学校や保育所（園）への活動共に十分な支援がある。また、町内のさまざまな情報が「くまとりコーナー」で閲覧できるのは、有益である。

今後に向けて

読書活動をしている人や団体だけでなく、より積極的に住民団体と連携して欲しい。また、パネルを使って、ＮＰＯや住民のボランティア団体の活動紹介、会員募集コーナーなどもあってよい。役場の各部署が抱えている団体の会合などにも働きかけ、図書館ができる支援の内容をＰＲする必要もあるのではないか。

4. 第3次実施計画（平成25年～27年度）の点検・評価について

平成19年策定の「熊取町図書館計画」に基づいて、平成25年度からの3年間のサービス計画として、あらたに第3次実施計画を事項の通り作成した。これにともない、点検・評価項目について変更するとともに、年度ごとの評価の方法についても下記の通り見直す。

（1）評価の方法

これまで、3年後の目標数値に対して毎年評価を行ってきたが、今後は3年毎に行うこととし、それ以外の年度は「中間報告」として公表する。「中間報告」では、実績数値を公表、評価するが、ABCD評価はしない。

（2）評価の基準等

【評価項目】

一覧表（P17）のとおり。

【目標値】

目標値については「国立国会図書館活動評価に関する有識者会議」でも資料として使われた「重点目標評価指標に対する目標達成度の評価基準」に基づき、「現行水準維持」「前年度比増」の2つを基本とする。

【評価の基準】

目標値の「現行水準維持」「前年度比増」のそれぞれに基づき、「重点目標評価指標に対する目標達成度の評価基準」の計算式を使って評価基準の幅を出す。評価基準の幅とは過去5年間の数値の変動の範囲の平均値である。過去の実績値の変動の範囲を超えて増減した数値を評価する指標として用いることとする。

ABCDの4段階での評価は以下の通りに行う。

	現行水準維持	前年度比増
A	評価基準の範囲以上の増加	評価基準の範囲以上の増加
B	評価基準の範囲以内の増減	評価基準の範囲以内の増加
C	評価基準の範囲以上の減少	評価基準の範囲以内の減少
D	評価基準の範囲の2倍以上の減少	評価基準の範囲以上の減少

【アンケート】

アンケートは 3 年ごとに実施する予定で、次回は平成 25 年秋に実施する。

点検・評価項目（案）

１　一人ひとりが居心地よく、楽しみを見つけ、問題を解決することができる場をつくる

評価対象事業		計　　画	評価の指標	平成25年度 取組実績	維持or 前年度比増	平成24年度 取組実績	【　参　考　】 23年度
(1)全ての世代に居心地の良い図書館							
1	館内利用の増加	資料を読んだり調べたりする利用の増加	・来館者数 ・館内閲覧量		新規	－	－
2	世代別満足度	より多くの住民に利用してもらえる図書館を目指す	・来館者アンケート ・有効利用率		維持	－ 19.5%	－ 20.3%
3	職員の対応	対応についての満足度向上	・来館者アンケート		維持	－	77.6% ＊22年度
(2) 障がいのある方へのサービスの充実							
1	宅配サービス	広くＰＲし、利用者の拡大に繋げる。	・貸出冊数		維持	6冊	0冊
2	対面朗読	広くＰＲし、利用者の拡大に繋げる。	・利用人数		維持	2人	2人
3	福祉施設へのサービス	団体貸出・リサイクル図書提供施設数、冊数	・貸出団体数、冊数 ・提供団体数、冊数		維持	2施設、238冊 5施設、191冊	5施設、142冊 3施設、52冊
(3)住民との協働によるサービスの推進							
1	住民との協働による事業の実施	協働によるきめ細かなサービスの提供	・実施件数		維持	26件(P4参照)	－
2	子どもの読書活動を支える体制づくりの推進	連絡協議会、専門部会、連絡会等の開催	・会議実施回数 ・参加人数		維持	8回 144人	10回 215人

２　大人の学びを支援する

(1)新鮮で魅力的な蔵書による**的確な資料・情報提供**							
1	資料の収集	新鮮な蔵書構成の維持	・開架蔵書新鮮度		維持	8.22	8.03
2	資料の貸出	個人貸出点数の維持	・住民1人あたり個人貸出点数		維持	7.44冊	7.6冊
3	行政情報提供	住民へのわかりやすい情報提供 庁内への情報提供	・利用度 ・情報提供回数 ・依頼件数		新規 維持 維持	＊ 212回 730件	＊ 217回 683件
(2)**自主的な学習の**支援							
1	講演会、講座等の開催（子ども関連のぞく）	住民の興味・関心に応じ、利用を促進する講演会等の開催	・実施回数（主催、共催、協力） ・参加者数（主催、共催、協力）		維持	19回 838人	－
2	会議室の提供	稼働率の向上	・利用団体数 ・稼働率		増加	40団体 30.9%	43団体 30.3%
3	学習スペースの設置	学生～大人までの学びを支援	・利用人数		新規	－	－

３　子どもが身近な場所で本に親しめる環境づくりと、学校と連携した調べ学習支援

(1)乳幼児期・幼児期における本に親しむ機会の拡大							
1	子育て支援講座の開催	図書館及び地域での講座開催	・館実施回数、人数 ・地域実施回数		維持	27回、923人 19回	24回、526人 12回
2	絵本こぐま便の実施	保育所(園）幼稚園への団体貸出の増加	・実施施設数 ・団体貸出冊数		維持	10施設 6,363冊	5施設 4,909冊
3	団体貸出	地域の文庫、子育て支援関係講座等への団体貸出	・団体数 ・貸出冊数		維持	16団体 5,373冊	14団体 3,672冊
(2)学校図書館支援センターとしての機能の充実							
1	学校図書館への資料提供	連絡便を活用し迅速な資料提供を行う	・貸出冊数 ・予約件数		維持	11,680冊 2,576件	10,415冊 2,072件
2	調べる学習コンクールの実施	興味を持ったテーマを自分で調べることに親しむ	・コンクール参加者数		新規	－	－
(3)障がいのある子どもの読書環境の整備							
1	資料の収集	多様な資料の提供	・点字児童書数 ・さわる絵本数 ・布絵本数		増加	38冊 34冊 19冊	38冊 31冊 4冊
2	行事の開催	出前おはなし会等の実施により図書館や本に親しむ機会を作る	・おはなし会回数 ・その他行事開催数		維持	８回 １回	０回 １回